

授業科目名	感性・イメージ表現(2000018)		
時間割名	感性・イメージ表現(22104)		
時間割担当	吉岡隆之 北村義博		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	火・2		

授業の目標・概要

絵画、造形、音楽、光のアート、身体表現などの芸術表現を通して、感動を伴って自らの感性・イメージを表現することは、「感性や身体性の気づき（回復・開発）」「集中力」「積極性」「満足感」「情緒の安定」などのポジティブな情動や意志を培い、自己受容や癒しにもつながる。また、こうした芸術表現は、子どもから高齢者まで、病気や障害をもつ人を含めて広い範囲の人々が行える表現活動である。本講義では、芸術表現を通して自らの感性・イメージを表現する方法を学ぶとともに、保健・医療・福祉・教育・スポーツなどの現場での実践例や効果についても学習し、対人援助に応用する方策について模索する。

演習（講義16時間、演習14時間）

学習の到達目標

1. 芸術表現を通して自らの感性・イメージを表現する方法に関する理論と実践について理解する。
2. 保健・医療・福祉・教育・スポーツなどの現場における感性・イメージ表現に関する実践例や効果について学び、対人援助に応用する方策を身につける

授業方法・形式

授業は講義と演習をおりまぜて行い、適宜、デジタル教材等を活用し、グループワークも取り入れる。また、授業内容に関する小課題の提出を求める。授業内容に関する積極的な意見の発表、発言などを奨励する。

授業計画

- 第1～2回 芸術と癒し、芸術表現と自己の気づき（講義・演習）
- 第3～4回 光と音楽と絵画の統合芸術「フィーリングアーツ」による感性・イメージ表現（講義・演習）
- 第5～8回 抽象絵画，光，音楽を融合した芸術表現：制作（講義・演習）
- 第9～10回 抽象絵画，光，音楽を融合した芸術表現：発表（講義・演習）
- 第11～12回 抽象絵画，光，音楽を融合した芸術表現：考察（講義・演習）
- 第13～14回 保健・医療・福祉・教育・スポーツなどの現場における感性・イメージ表現に関する実践例と効果（講義・演習）
- 第15回 感性・イメージ表現と対人援助（講義・演習）

成績評価の基準

芸術表現（制作・発表・考察）50%、授業への取組（積極的発言、発表など）40%、小課題10%

授業時間外の課題

毎回、授業終了時に、授業内容に関する小課題及び次回の授業内容に関する小課題を課し、自己学習（復習・予習）を促す。

メッセージ

やさしい気持ちでください。（北村）
自らの感性・イメージを表現し、自分らしさに気づいてください。（吉岡）

教材・教科書

特定のテキストは使用せず、授業内容に関する資料等を配布する。

参考書

参考図書、参考文献等については適宜、情報を提供する。